

議会運営委員会先進地視察報告書

戸来 伝

-
- 1.日 時 令和元年 10 月 17 日 10:00～11:30
 - 2.視察先 北海道石狩市
 - 3.調査事項 ①議会 ICT 化の取り組みについて
②広報、広聴活動の実施状況と今後の方向性について
 - 4.内容、所感

①議会 ICT 化の取り組みについて

- ・見易さ、取り扱い易さ、低コスト等の理由から、タブレットではなく職員のリース終了後のパソコンを買い取り、ペーパーレス化を道内初で実施した。
- ・資料は USB メモリで資料提供、貸与パソコンからはインターネットへの接続を禁止して、情報流出を防止していた。
- ・予算書、決算書及び付随資料もデータで提供されていたが、パソコンを利用したこともあり、使いにくいという意見は特になかった。
- ・当初よりもタブレットの経費が安くなっていることから、今後タブレットの導入について再検討する予定。
- ・実際にパソコンを操作してもらい資料を見ると、画面が大きいことや、使い勝手など良い印象を受けた。しかし、災害時の対応や通知文書、一括管理の問題、さらに連絡手段を含め、総合的に考えるとやはりタブレットを選択することになるのではと再認識した。

②広報、広聴活動の実施状況と今後の方向性について

- ・議会広報だけでなく、市の広報も業者へ委託し、長期継続契約することで、経費を抑える工夫をしていた。
- ・原稿作成からレイアウトまで、写真選定以外は、ほぼ業者が行っていた。
- ・デザイン力があることなどから、既読率向上の効果があり利点が多く見受けられたが、同内容の業務が可能な業者が必須でさらに全戸配布業務もとなると、現段階では当市では難しいと思った。

-
- 1.日 時 令和元年 10 月 18 日 9:30～11:00
 - 2.視察先 北海道登別市
 - 3.調査事項 ①議会サポーター制度について
②議会における情報通信機器等に関する基準について

4.内容、所感

①議会サポーター制度について

- ・サポーター制度には、市民サポーターと専門的サポーターの2種類あり、どちらも募集しても応募が少ないことが一番の課題であった。
- ・委員会で専門的サポーターから意見を伺えることは、議論が深まり委員会活動が活発になり、議員の知識も深まる。
- ・専門的サポーターの活用は、専門的な知見からの意見を伺えるだけでなく、議員の知識向上には良い制度だが、成り手不足は当市でも課題となると感じた。

②議会における情報通信機器等に関する基準について

- ・「情報通信機器等に関する運用基準」の禁止事項にある SNS 関係については、やはり個人のモラルに委ねなければならないとのことだった。
- ・登別市も現在は貸与パソコンを利用しているが、今後スケジュール管理等も考えて、タブレット導入を検討している。
- ・情報セキュリティ面に関しては、市担当課との連携が必須で、導入までに入念に協議しなければならないと思った。

委員会行政視察報告書

堰野端 展雄

委員会名	議会運営委員会			
活 動 委 員 名				
委員長 戸来伝	副委員長 堰野端展雄	山端博		
久慈年和	江渡信貴	石橋義雄		
畑山親弘				
経 費 区 分				合計金額
1 研修旅費	2 自動車借上料	3 議長交際費	一人当りの費用	
期 間 (年月日)	令和1年10月16日～18日(2泊3日)			
視察事項	1、議会ICT化の取り組みについて			
	2、広報・広聴活動の実施状況と今後の方向性等について			
	3、議会サポーター制度について			
	4、議会における情報通信機器等に関する基準について			
視察先	北海道石狩市			
	北海道登別市			
内容及び成果				
1、議会ICT化の取り組みについて				
まさに目から鱗の視察であった。これまで、ICT化というと、タブレットの導入しか頭になかったが、まさか、パソコンでデータの閲覧のみを導入するとは。				
当然、石狩市議会でもタブレットの導入も検討している。資料の受け渡しがスムーズとか、資料の整理がしやすいなどの効果を認めている。しかし、パソコンであれば、誰でも一度は触ったことがあり、取り扱いが容易。タブレットより画面が大きいと、議案や資料が見やすい。議案や資料の整理がしやすい。そして、なによりもタブレットに比べ、初期費用が低額に抑えられることを思いついたというのだ。確かに、この初期費用に関しては、我が議会でも多額のため、どのような導入理由とするか考慮しなければならない課題であり、石狩市議会でも約800万円＋ランニングコストの初期費用がかかると積算している。ICT化は現在、様々な分野で当たり前のように進み、当たり前のように導入されているものの、1000万円近い費用がかかるとなると、躊躇するのは当然であろう。そういうことから、石狩市議会ではパソコンを導入。初期費用はなんと72万7千円。詳細は割愛するが、よくパソコンにたどり着き、この費用で導入を実施				

※視察報告書の充実を図るため、視察時の質疑応答事項等も記載してください。視察者個々の所感は別途作成し添付してください。

出来たものだと、本当に感心させられた。確かに、資料の受け渡しや整理には少し難があるものの、間違いなくペーパーレス化は達成している。本会議におけるペーパーレス化による削減経費は約140万円（H28.9導入時）。導入後、即、効果が出たわけである。ペーパーレス化だけをみれば、素晴らしい取り組みであると思う。どうしても、初期費用の財源が無ければ、当分の間、取り組んでも申し分ないと思う。

ただし、当然、石狩市議会でもタブレット端末の導入は検討しているとのこと。やはり、資料の一元管理や議会招集文書等のペーパーレス化、SNSを活用した情報発信等を考慮するとだそうだが、特に、石狩市も行政面積が広いため、ある議員は自宅から議会まで、片道60キロメートルだそうで、そういうことから、最終的にはタブレット端末の導入は止む無しとのこと。

2、広報・広聴活動の実施状況と今後の方向性等について

議会だよりにおいては、H16までは、広報編集委員会が原稿を作成し、広報特別委員会では原稿を確認し発行。定例会最終日から約70日。現在では、原稿作成を業者に委託。それを広報特別委員会で確認し、発行。40日でできるようになったとのこと。

配布も、これまでは「広報いしかり」に折り込み、全戸配布していたがH30から原稿作成から配布までのすべてを業務委託とした。これにより、議会だより1部当たりの単価が46円から29円に削減できたとのこと。

十和田市議会では、質問項目を各議員が提出し、議会事務局で答弁原稿を作成。質問議員が確認後、業者に委託し作成している。

改めて、当議会の作成方法で、単価、作業効率の部分を検討しなければならないと思わされた。

3、議会サポーター制度について

登別市議会では、議会活動を活発化させるために、各委員会が「年間活動計画書」を作成し、市民の声を取り入れる「意見交換会」や「議会フォーラム」を開催。これらを監視チェックする機能や政策提言、条例制定などへ反映させるため、「市民・住民参加型」の取り組みを基本に活動が展開されている。

その一つに議会サポーター制度がある。これは、議会の政策形成機能や審査機能を高めるために、市民（15名以内）や専門的な知識等を有する者（5名以内）をサポーターとし、委員会や議案等の審査・調査に参考意見を述べたり、1年に1回は各委員会と1回以上の意見交換を行うこととしている。

大変、有意義な取り組みではあると思うが、サポーターは無償であり、公募や議長の指名によるようだが、なかなか集まらないのが現状のようであった。

議会改革の先進地である登別市議会でも、まだまだ確立できていない制度に感じられ

た。ただ、様々な議案等について、市民の意見や専門的知識を持った方々の意見を聞くことは重要であるとおもうので、今後も先進地の取り組みを注視し、当議会でも検討する機会を持ちたいと思う。

4、議会における情報通信機器等に関する基準について

当議会でも、いよいよタブレット端末の導入を目指す時期に来ているものと思っているひとりとして、興味のある項目であった。

登別市議会の情報通信機器等に関する運用基準は、しっかりとしたものであり、当議会で作る際には参考とするべきものであったが、その中で特に参考になったのが、行政側と議会ではWifi契約が別であること。当市も現在そうであるが、行政側のWifi環境では、知りたい情報がなかなか手に入らない。つまり、いろんな面でブロックをかけているのである。職員の意味のない閲覧を禁止しているためであると思うが、我々議員にとっては、活動にあたって、様々な情報が必要であり、また、その情報が正しいか否かを調べるためにもフリーな環境が必要であると思っているので、当議会での導入の際には検討したい。

また、議場でのモニターの使用について、パソコンからモニターに表示する際には、議事録の関係上、「モニターを見てください」だけでは、何がモニターに表示されたのかわからないため、詳細を述べないとならないとされていた。確かに、文字で残すには言葉にしないと残らないわけであり、大変参考となった。

堰野端 展雄

十和田市議会運営委員会 行政視察報告書

山 端 博

視 察 日：令和元年 10 月 17 日

視察場所：北海道石狩市

人 口：約 58,000 人

面 積：722,42 km²

視察項目：議会 ICT 化の取り組みについて、広報活動の実施状況と今後の方向性について

石狩市では、議会だよりの編集方針や配布方法、印刷製本などの合理的な取り組みを行っている。また、十和田市ではペーパーレス化や事務効率向上を目指したタブレットの導入を模索している。すでにパソコンの導入によるペーパーレス化で大きな成果を上げている石狩市議会の取り組みを視察した。

「石狩市議会だより」を製作するにあたって、写真撮影、質問・答弁原稿の作成、レイアウト、配布等を業者に委託し経費の節約や作成スピードの短縮に成果を上げてきた。石狩市の広報と抱き合わせによる業者発注で、単価を圧縮することができている。契約内容は、3年間契約でプロポーザルにより業者を決定した。作成期間も、従来の約70日から30日間短縮している。配布方法も、従来からの自治会への協力依頼から、フリーペーパー業者へ業務を委託することによって経費を圧縮することができた。

パソコンの導入によるペーパーレス化については、石狩市が使用していた5年落ちのリース期間終了後のノートパソコンを安価で買い上げることによって、初期費用があまりかからないICT化を図った。Wi-Fi環境を持たない石狩市役所では、ネット接続をしないペーパーレス化に特化したパソコンを導入した。ネット接続をしないためUSBメモリによるデータのやり取りでデジタルディバイドの解消を図った。

●パソコン導入によりペーパーレス化した書類

【行政側】①議案書、付随する書類 ②予算書、決算書、と付随する書類

③例月出納検査報告書、監査報告書

【議会側】①意見書案等議員発議議案、委員長報告（特別委員会、各常任委員会）冊子

②議会会議録（冊子）

●パソコン導入費用

- ・パソコン35台（事務局、予備を含む）※修理しない175,000円
- ・コンセント等の電源改修（議場、2委員会室、全員協議会室）486,000円
- ・USBメモリ（各議員2個）66,000円 合計727,000円

●ペーパーレス化による削減経費（本会議）

- ・印刷・製本に係る人件費982,000円
- ・消耗品（主に紙）404,500円 合計1,387,300円

※平成29年9月から委員会でもペーパーレス化 約600,000円
(人件費40万円、消耗品20万円)の削減

今回は、議会改革の中の「議会だより」や、ペーパーレス化に伴うパソコン導入について視察したが、共に経費の縮減が根本にあった。「議会だより」作成・配布における業者委託は、確かに従来手法とは異なり、少ない経費でこれまで同様の効果を出している。ペーパーレス化等ICTの導入については、石狩市議会の手法がペーパーレスに特化した試みだったため、本市議会の目指すICT化とは、その方向性が違っていた。だが、ペーパーレスによる経費削減は効果が大きいと思われ、本市議会が模索しているタブレット端末の導入に向けて大いに参考としたい。

議会運営委員会 山端 博

十和田市議会運営委員会 行政視察報告書

山 端 博

視察日：令和元年10月18日（金）

視察場所：北海道登別市

人 口：約47500人

面 積：212,21 km²

視察項目：議会改革・議会サポーター制度について

十和田市議会では議会改革の推進を図るために、議会改革や議会活性化各種取り組みを実施してきました。しかし、近年の市民ニーズの変化に対応するためには、市民に親しまれ、わかりやすい、開かれた議会運営を実施するため、平成19年度から「議会改革」に取り組んでいる登別市議会を視察研修し、当市議会の議会改革と議会活性化に生かすため、登別市を訪れました。

○常任委員会の市民との意見交換について

議会活動を活性化させるにあたり、各委員会が「年間活動計画書」を作成して、市民の声を取り入れる「意見交換会」や「議会フォーラム」を開催し、それらを監視チェック機能や政策提言、条例制定などへ反映すべく「市民・住民参加型」の取り組みを基本に活動を展開している。

「意見交換会」は、「市民への情報提供、課題等の解決や調査、市民意見の把握」などを目的に計画し、主に市内の各種団体等を中心に開催している。

「議会フォーラム」は、平成18年における議会改革の取り組み経過において、「議員定数3名減、定例会の年3回開催（6月議会廃止）を実施したことから、議会の活性化を維持するため、「6月議会の補完」を目的に「議会フォーラム」の開催を決定した。議会フォーラムは、議会全体として「市民との意見交換の場を定期的で開催するもの」であり、平成19年度から継続している。

○議会運営における ICT の取り組みについて

平成12年度に「IT推進に関する特別委員会」を設置、平成13年度は会派に1台パソコン設置（貸与）と市議会ホームページの開設、平成14年度は例規集のCD化と議員へパソコンの貸与、平成21年度から議会中継を開始（本会議と各委員会）、テレビモニターによる資料提供を開始した。

○議会サポーター制度について

議会の政策形成機能、審査機能を高めるため、市民で構成する議会サポーターと専門的な知識等を有する者で構成する議会サポーターを設置した。市民サポーターは15名以内、専門的サポーターは5名以内とし、市民サポーターには委員会において必要と認めるとき、議案等の審査又は調査のための参考意見を聴取する。また、機会がない場合であっても、委員会の委員と毎年5月から翌年4月までの間に1回以上、意見交換を行う。専門的サポーターには委員会において必要と認めるとき、議案等の審査又は調査のための参考意見を聴取する。また、議長が必要と認めるとき、議案等の審査又は調査のための参考意見を聴取する。

議会活動の活性化に向け各委員会が「年間活動計画書」を作成して、市民の声を取り入れる「意見交換会」や「議会フォーラム」を開催、その後において監視チェック機能や政策提言、条例制定などへ結びつける「市民・住民参加型」の取り組みの活動を展開している。また、議会の政策形成機能、審査機能を高めるため、市民サポーターと専門的サポーターを設置し、委員会において必要と認めるとき、議案等の審査又は調査のための参考意見を聴取するなど、広範囲による議会改革・議会活性化の施策行っている。議会改革に終わりはないとも思える内容であり、時代や市民ニーズに沿った変革で、当市も登別市議会の方法を参考に今後の議会運営の在り方を考えていきたいと思う。

議会運営委員会 先進地行政調査報告書

議会運営委員会 久慈 年和

1. 北海道石狩市

パソコン導入、ペーパーレス化等ICT化

十和田市議会は、タブレットの導入を検討していたが、石狩市では市の職員が五年間使用して破棄される予定のパソコンを安い価格で再購入し、ペーパーレス化し経費の削減をしていた、

(1) タブレット導入の効果

- ◇ 議案、資料の受け渡しがスムーズ
- ◇ 議案、資料の整理がしやすい

(2) パソコン導入の効果

- ◇ 誰でも一度触ったことがあり、取り扱いが容易
- ◇ タブレットより議案、資料が見やすい
- ◇ 議案、資料の整理がしやすい

(3) 費用面の比較

- ◇ タブレットの導入費用は初期費用として約800万円＋ランニングコスト
- ◇ パソコンの導入費用は低額に抑えられる方法検討

(4) パソコン導入によりペーパーレスにした資料

【行政資料】

- ① 議案、付随する資料
- ② 予算書、決算書と付随する資料
- ③ 例月出納検査報告書、監査報告書

(5) 本会議におけるペーパーレス化による削減経費（平成28年9月導入）

- ◇ 印刷、製本にかかる人件費 982,000円
- ◇ 消耗品（主に紙） 404,500円
- 合計 1,386,500円

※ 平成29年9月から常任・特別委員会でも導入

約600,000円（人件費40万、消耗品20万）

(6) パソコン導入経費

- ◇ パソコン 35台（事務局、予備含む）修理不可 175,000円
- ◇ コンセント等の電源改修（議場、2委員会室、全員協議会室） 486,000円
- ◇ USBメモリ（各議員2個） 66,000円
- 合計 727,000円

(7) 今後のICT化の取り組み

- ◇ タブレット端末の導入（資料の一元管理、議会招集文書等のペーパーレス）
- ◇ SNSを活用した情報発信

<行政調査の感想>

タブレットを導入する事を前提に検討していたが、その前にパソコンを低価格で導入してみる価値はあると思った。予算書と決算書もパソコンで見られるようになっていた。ただ、予算、決算委員会が7日ぐらいの開催になっていたのは課題だ。

2. 北海道登別市

議会における情報通信機器等に関する基準

議員に任期中にパソコンを貸与し、本会議へも持ち込み、モニターを使用した一般質問を行っている。

<行政調査の感想>

新しいパソコンを貸与しているため、パソコン導入の経費が石狩市と比較して大幅に持ち出し額が多くなっている。そのため、石狩市の方法で導入を検討すべきだと感じた。

また、登別市議会における情報通信機器等に関する運用基準を定めており、十和田も運用基準の必要がある。

議会運営委員会 先進地調査視察

江渡信貴

①石狩市 議会 ICT 化の取り組みについて

石狩市は石狩平野の北西部、石狩川最下流の両岸に位置しています。かつてはサケなどの漁業が盛んだったが、戦後札幌市のベットタウンとして発達していった。

2015年頃から議会改革推進特別委員会で、議会の ICT 化が議論されてきており、2016年度よりノートパソコンを導入した。膨大な議案資料などのペーパーレス化を進める1つとして、また、端から端まで60kmも離れていることもあり、議案資料の受け渡しもスムーズになるし資料の整理もしやすくなる利点がある。

5年落ちのリース PC を5000円で買取り、行政資料・議会資料などペーパーレス化した。その効果は1,387,300円に上がる。4年で800万の経費が浮く。

パソコンの導入経費は35台、その他備品で727,000円その後の経費は掛からない。今後の ICT 化の取り組みとしてタブレットの導入や SNS を活用した情報発信を考えている。

十和田市庁内では、ランの環境はあるが、個人の PC を持ち込んでも対応が出来ていない、また、庁内の PC を使うと自由に検索が出来ず、政策等考えていくとき深掘りできない。ペーパーレス化を始め、こうしたラン環境も改善していかなければならない。今後、議会ではタブレット導入に進んでいく。いろいろな先進事例を比べていきたい。

②石狩市 広報、後方活動の実施状況と今後の方向性について

発行部数は 26,700 部。A 4 版で 16 ページ、全戸に配布。1 号あたりの経費は約 766,076 円である。議会広報特別委員会では、議会広報の編集のほか、議会インターネットテレビ放送に関する事項についても調査の所管もを行っている。十和田市と比べ石狩市では委託による効率性の充実に回りその時間を政治活動に当てている。

③登別市 議会サポーター制度と議会における情報通信機器等に関する基準について

登別市は、北海道の西南部に位置し、形状はほぼ菱形をしていて東西 18.5km、南北 22.6km で総面積は 212.21 平方 km です。人口は平成 31 年 3 月で約 48,000 人。高齢化率は 35.8% です。

議会サポーターは、議会の政策形成機能、審査機能等を高めるために設置したそうです。市民サポーターとして 15 名以内。専門的サポーターとして 5 名以内を定めています。役割としては、議案等の審査又は調査のための参考意見を聞くためだそうです。

登別市議会基本条例を制定するため、議会基本条例小委員会が設置され何度も協議を重ね平成 23 年 5 月 1 日に施行されました。この条例の特色は、多くの市民参加と議会活動に対する理解および信頼を得るため、議会に関する情報公開と説明責任を果たすことを定めている。また、市民の意見や地域の声を把握するため、市民と議員とが意見交換する場を設けること、さらには直面する重要課題などにお対応するため専門的知見を有する市民に議会サポーターとして協力をしてもらうことなどを規定しています。登別市議会傍聴規則においては「写真撮影、動画撮影及び録音」の項目において、傍聴人による写真撮影、動画撮影及び録音を許しています。十和田市の議会もインターネットで中継をしているのだから撮影等、開かれた議会を目指すべきですし、市民との意見交換も積極的に進めるべきだと感じました。

委員会行政視察報告書

委員会名	議会運営委員会			
活動委員名				
石橋 義雄				
経費区分				
1 研修旅費	2 自動車借上料	3 議長交際費	一人当りの費用	合計金額
期 間 (年月日)	令和元年 10月 16日 ~ 令和元年 10月 18日 (2泊3日)			
視察事項	議会ICT化の取り組みについて 議会サポーター制度について			
視察先	北海道石狩市議会 北海道登別市議会			
内容及び成果	<p>議会運営委員会にて10月16日～10月18日までの2泊3日の日程で北海道石狩市議会と登別市議会を行政視察研修をいたしました。石狩市議会では議会のICT化について調査研修をいたしました。石狩市議会では全議員にノートパソコンを貸与しているとのこと。議案書等全ての資料をデータで配布して議場で閲覧できる様とし、ペーパー化は元より経費削減、さらには議会運営の効率化等が期待できるとのことでした。</p> <p>二日目の登別市議会では議会サポーター制度について調査研修をいたしました。議会の政策機能と着査機能を高めるため議会サポーターを設置していました。その構成は市民と専門的知識等を有する有識者で構成されていて議案等の着査又は調査のための参考意見等を述べることからできる等 委員会の委員として1年間に1回以上の意見交換が義務づけられているとのことでした。</p> <p>十和田市議会にて議論が必要なのかなと実感しました。</p>			

※視察報告書の充実を図るため、視察時の質疑応答事項等も記載してください。視察者個々の所感も別途作成し添付してください。

委員会行政視察報告書

畑山 親弘

委員会名		市議会運営委員会	
活動委員名			
久米 信	江渡 信貴	竹島 勝昭	
堀野 雄	石橋 新雄	野月 一博	
山端 博	畑山 親弘		
久美 平和			
経費区分			合計金額
1 研修旅費	2 自動車借上料	3 議長交際費	
期間 (年月日)	2014年10月16日 ~ 2014年10月18日 (2泊3日)		
視察事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 議会 ICT化の取り組みと広報広聴活動と今後の方向性等について 実態状況 ・ 議会資料のデジタル化と議会資料の情報発信等に関する取り組み 		
視察先	<ul style="list-style-type: none"> ・ 北海道 石狩市議会 ・ 北海道 釧路市議会 		
内容及び成果			
<p>1-1 石狩市の議会 ICT化と広報広聴活動等について (加納議長 向井 説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ICT化については本県議会改革委員会でも取りあがっている事項であるが、新庁舎の部室もあり、遅れては状況という。平成26年度は、IT化の推進もあつたと思われる。 ・ 石狩市議会での ICT化は、平成27年5月6日 石狩市議会運営に検討を始し、翌年の28年1月議会から運用を開始したとのことである。 ・ 2の運用によつて、印刷費40万円と人件費98万円 合計で年138万円、経費削減できたとのこと。 ・ 上記のように、2人の全職員に配布するということで、新しい仕組みの運用も進められているとのことである。 ・ 県内の10市の中で、入庁して初めて、半数以上が導入している。今年では、IT化の運用も、最初は不慣れでもおこなったものの、おこなったことで、最終的には、IT化を進めることになった。(詳しくは、石狩市の ICT化資料を添付している) 			

※視察報告書の充実を図るため、視察時の質疑応答事項等も記載してください。視察者個々の所感も別途作成し添付してください。

委員会行政視察報告書

委員会名	議会運営委員会			
活動委員名				
野月 一博				
経費区分				合計金額
1 研修旅費	2 自動車借上料	3 議長交際費	一人当りの費用	
期間 (年月費)	令和元年10月16日 ～ 令和元年10月18日(2泊3日)			
視察事項	1 「議会ICT化の取組み」及び「広報、公聴活動の状況等」			
	2 「議会サポーター制度」及び「情報通信機器に関する基準」			
視察先	1 北海道石狩市			
	2 北海道登別市			
内容及び成果				
《石狩市》				
1 「議会ICT化の取組み」について				
議会主導で、平成28年9月からノートパソコンを導入している。				
○導入の効果				
・ 取扱いが容易				
・ 議案、資料が見やすい				
・ 議案や資料の整理がしやすい など				
○導入経費				
	パソコン	35台	175,000円	
	電源改修		486,000円	
	USBメモリ		66,000円	
		合計	727,000円	
○ペーパーレスとなった資料				
・ 議案、予算書、決算書、付随する資料				
・ 例月出納検査報告書、監査報告書				
・ 議員発議議案、委員長報告				
・ 議会会議録				

○今後の取組み
・タブレット端末の導入
・SNSの活用
2 「広報、公聴活動の状況等」について
広報として議会だよりを発行し、公聴としては議会報告会を開催している。
○広報について
年4回発行し、定例会・臨時会の議決事項、代表・一般質問、常任委員会報告などを掲載している。市広報とともに全戸配布している。議会では「広報特別委員会」を設置し、校正や写真の選定などを行っている。
○公聴活動について
毎年11月に市内4ヶ所で開催し、各年度で内容は若干異なるが、常任委員会の視察報告や参加者との意見交換を行っている。参加者は4会場合計で50人程度とやや少ない状況にある。
《登別市》
1 「議会サポーター制度」について
平成26年度から、登別市議会基本条例に基づき実施している。サポーターは、市民で構成する「市民サポーター」と専門的な知識を有する者で構成する「専門的サポーター」がある。市民サポーターは公募により15人以内、専門的サポーターは議長の指名により5人以内となっている。
「市民サポーター」の役割
・議案等の審査又は調査のための参考意見を述べる。
・委員会委員との意見交換
「専門的サポーター」の役割
・議案等の審査又は調査のための参考意見を述べる。
・議長が必要と認めたとき、議案等の審査又は調査のための参考意見を述べる。
2 「情報通信機器に関する基準」
議会では、情報通信機器等の積極的な活用による情報化の促進を図るうえで、その適正な使用について必要な事項を定めている。
具体的には、ウイルス対策等が適切に管理された機器等の使用、会議の目的以外での使用禁止、会議で使用できるパソコンは貸与するパソコンのみ、貸与パソコンの市庁舎・公共施設以外での使用や改造、ソフトウェア削除・インストールなどの禁止、電子メールの積極的活用などが運用基準として制定されている。
《感想》
ICT(情報化)については、両市ともに先進的に取り組んでおり大変参考となった。サポーター制度については、その効果の検証を期待するところである。